

## 海外邦人安全対策情報（平成25年度第3四半期）

### 1. 社会・治安情勢

2012年6月のイエメン政府軍によるアル・カーイダ掃討作戦により、アル・カーイダは本拠地としていたアビヤン県の各都市から周辺諸州に逃走しました。その後も各地に潜伏するアル・カーイダ分子による政府軍・治安部隊施設等に対する自爆攻撃、軍・治安当局者の殺害及び誘拐、外国人に対する誘拐・殺害事件等のテロ活動を継続して行っています。

昨年3月18日に国民対話会議が開幕し、イエメン全土の警備体制が強化されたことから、アル・カーイダのテロ活動は一時下火になっていましたが、同年4月以降、ハドラマウト県・アビヤン県等でテロ活動を再開しています。またアル・カーイダは外国人誘拐・襲撃事件への関与を続けています。アル・カーイダの関与は不明ですが、昨年10月～12月中にサヌア市内だけでもドイツ大使館警備担当者殺害事件、国連職員（シエラレオネ国籍）誘拐事件、カタール大使館員誘拐未遂事件、日本大使館員襲撃事件などが発生しています（2012年から13年にかけてアル・カーイダが誘拐したスイス人女性、フィンランド人夫妻、オーストリア人男性を解放する際得た身代金等がアル・カーイダによる新たなテロ活動の資金源となっているとの見方があります）。

2012年における政府軍及び治安部隊要員の殺害件数（内務省発表）は、首都サヌアで18件、ラヘジ県で15件、ハドラマウト県及びタイズ県で各々10件、ダーリア県で6件、アデン県、ベータ県及びアビヤン県等で7件でした。

また2012年にオートバイを使用した殺害件数（内務省発表）は、全国で66件のぼり、政府軍及び治安部隊要員を標的とした殺害事件の約95%がオートバイを使用したものであり、政府軍及び治安部隊要員40名、一般市民4名が殺害されるとともに、国軍及び治安部隊要員21名及び一般市民9名が負傷しました。

### 2. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 当国における一般犯罪発生統計については、2012年版の統計資料が未発表のため、2011年版イエメン政府発表の一般犯罪発生統計に基づき、当国における凶悪犯罪を含む一般犯罪の現状につき、以下のとおりです。

2011（平成23）年中に発生した殺人事件発生件数は1393件（殺人未遂を除く）（前年比24%増）、強盗事件発生件数は471件（前年比7.5%減）、放火事件発生件数は254件（放火未遂を除く）（前年比15.1%減）、強姦事件発生件数は145件（強姦未遂を除く）（前年比27.5%減）、誘拐事件発生件数は220件（前年比35%増）、窃盗（住居等侵入）事件発生件数は2049件（前年比18.7%減）、窃盗（自動車盗）事件発生件数は1182件（前年比20.2%増）となっています。殺人、誘拐などの凶悪犯罪及び自動車盗の発生件数が激増していることがわかります。人口10万人当

なりに換算した一般事件発生率では強盗、放火、強姦事件は日本と同程度ですが、殺人事件については日本の約6倍、誘拐事件については日本の約8倍と、いずれも日本に比べて高い発生率となっています。一方、窃盗（住居等侵入）事件発生率は日本の約12分の1、自動車盗事件の発生率は日本の約4分の1です（警察庁刑事局刑事企画課発表、平成23年1月～12月分犯罪統計資料【確定値】に基づく）。また当国の特徴の一つとして、銃器が市民に広く浸透しており、これら銃器がイエメン人同士の争いに使用されるケースが多々存在することから十分な注意を要します。2013年に入り、イエメンの将来の方向性を決定づける国民対話会議が3月18日から開会し、それに伴い、治安当局による昨年以上の重層的な警備体制が敷かれていることもあり、一般犯罪発生件数は横ばいまたは減少傾向になるとみられますが、引き続き注意を要する治安状況です。

（2）平成25年10月～12月中の邦人被害にかかる重大事件については、12月15日に自家用車で通勤途上の日本大使館員がタクシーに乗車した武装グループに襲撃され、刃物等で切りつけられ負傷するとともに、所有車両を強奪される事件が発生しました。外国人に対する誘拐・襲撃事件が昨年10月ごろから急増傾向にあり、これまで欧米人を主要ターゲットとしていると思われてきましたが、欧米人以外でもこれら被害に遭遇する可能性が格段に増してきていることを示す事件でした。過去に邦人が巻き込まれた犯罪例としては、邦人に対して親しげに話しかけ、観光案内資料の購入を持ちかけ、後になって法外なガイド料を要求したり、当国の治安当局関係者であると装って近づき、一瞬の隙を見て財物を窃取する等の事件及び女性に対する痴漢事件等が報告されています。以上の点から、誘拐事件未然防止のため、個人旅行者は、親しげにすり寄ってくる現地人には絶対に近づかない、応じないという断固たる姿勢が重要です。また他の事例として、当地の比較的安価な価格のホテルに投宿した邦人旅行者が就寝中、突然何者かが同人居室に侵入し、所持品を窃取されるという事案も発生しています。部屋の出入口ドアの施錠等についても細心の注意が必要です。なお、平成26年1月9日現在、当国全土に渡航自粛・退避勧告が発令されています。

（4）当地の交通事情については、車両最優先であり、2011（平成23）年中のイエメン政府発行の交通事故統計資料によれば、交通死亡事故による死者数は2152人（前年比27.3%減）であり、日本と比べて人口10万人あたり約2倍となっています（日本における2011（平成23）年中の交通事故死亡者数は4612人）。交通マナーはほぼ皆無であり、信号無視、速度超過、通行区分違反（逆走）、右左折時の方向指示器不使用等の交通違反は枚挙にいとまがありません。道路を通行する際には、細心の注意が必要です。

### 3. テロ・爆弾事件発生状況（平成25年10月～12月）

（1）10月3日、部族関係者がマアリーブ県ワディ・オベイダにある石油パイプラインを爆破しました。

(2) 10月5日、サヌア市ハッダ地区のハッダ郵便局近くにおいて、武装集団と検問所の軍人との間で、機関銃やカラシニコフ銃を用いた衝突が発生し、軍人2名を含む4名が負傷しました。

(3) 10月5日、サヌア市ノクム山にあるハファ軍事基地の武器庫で大きな爆発が発生しました。被害者数は不明です。なお国防省は、石が武器庫に落下したことにより爆発が起きたと発表しました。

(4) 10月10日、ハドラマウト県ムカッラ市において、ハドラマウト大学の警備責任者である政治治安総局士官が、入院中の友人を見舞った後、病院を出たところをバイクに乗った武装グループに襲撃され殺害されました。

(5) 10月11日、ラヘジュ県ヤーフィウ郡商業施設において、爆発ベルトを使った自爆テロが発生し、2人が死亡、3人が負傷しました。

(6) 10月11日、ハドラマウト県ガイル・バワジール郡において、アル・カーイダ所属とみられるオートバイに乗車した2人組がモスクから出てきた軍幹部（軍学校次長、大佐）を銃撃し殺害しました。

(7) 10月13日、タイズ県において、バイクに乗った武装集団の襲撃により、シェイフ・ハムード・サイド・ミフラフィの弟、ファイサル・ミフラフィ博士が暗殺されました。

(8) 10月17日、ベイダ県の検問所3か所において、同時多発的にアル・カーイダのメンバーによる攻撃が行われ、少なくとも軍人2名が死亡、7名が負傷しました。

(9) 10月18日、アビヤン県アフル郡にある第111旅団において、アル・カーイダのメンバーが自爆攻撃を行い、少なくとも軍人12名が死亡、9名が負傷しました。負傷者には、第111旅団司令官が含まれ、同司令官は病院へ運ばれたが重傷とのことです。

(10) 10月23日、ハドラマウト県シバームの軍の検問所において、アル・カーイダの武装集団がRPGで同所を襲撃しました。死傷者等は不明です。

(11) 10月23日、ハドラマウト県ムカッラにおいて、バイクに乗車した2名の武装集団が中央銀行へ向かっていたムカッラ県水・下水道局財務部長の車を襲撃し、500万リアル（約250万円）を奪い逃走しました。

(12) 10月24日、サヌア市内チュニジア通りにおいて、ナンバープレートのない車（車種：ハイラックス）に乗車した4名のアル・カーイダのメンバーが、政治治安総局大佐アブドルラフマン・シャーミーが自宅から出て車に乗るところを目がけて機関銃を乱射し、暗殺しました。

(13) 10月31日、アビヤン県マフファド郡において、アル・カーイダと見られる武装グループが軍検問所を襲撃し、軍兵士4人が死亡しました。

(14) 11月17日、ホデイダ県の市場において、爆弾が爆発し2名が死亡し、32名が負傷しました。

(15) 11月17日、アビヤン県において、人民委員会のリーダーが武装集団により暗

殺されました。

(16) 11月19日、アビヤン県において、バイクに乗車した2名の男が、ウーラー紙とシャリーア紙の倉庫を銃撃しました。

(17) 11月20日、サヌア市ズベイリ通りの裏通りにおいて、ホーシー派系新聞ハウイーヤ紙編集長ムハンマド・イマードの自動車に仕掛けられた爆弾が同編集長が乗車しようとした際に爆発し、同編集長が負傷しました。また、付近にあった2台の乗用車が炎上しました。

(18) 11月20日、サヌア市政治治安総局の建物入口付近に置かれた手りゅう弾が爆発しました。清掃員が入口付近に置かれたビンを拾った際、同手りゅう弾が爆発し、その破片で負傷しました。

(19) 11月21日、アビヤン県ラウダ郡のシェルワン診療所において、何者かがIEDを爆発させ、建物の一部が崩壊したが被害者はありませんでした。

(20) 11月22日、マハウート市において、州警察署長が武装集団により銃撃されたが被害者はありませんでした。犯人の一部は逮捕されました。

(21) 11月22日夜、国民対話メンバー兼国会議員のアブドルカリーム・ジャドバーン（ホーシー派）がサヌア市のショーカニ・モスク（タハリール広場北方向）を出たところで2名のバイクに乗車した男に銃殺されました。犯人はそのまま逃亡しました。

(22) 11月23日、ダマール市において、治安関係高官の車に爆弾が仕掛けられ爆発しました。高官は無事でしたが、近くにいた歩行者複数名が負傷しました。

(23) 11月24日、ハドラマウト県セイユーンにおいて、アル・カーイダ分子が検問所2カ所を襲撃し、兵士4名が死亡しました。

(24) 11月26日、サヌア市内30M通りにおいて、警察大学校訓練課長（Jahdari 大佐）が、退庁の際バイクに乗車した2人組に襲撃され死亡しました。

(25) 11月27日、サヌア市内スナイナ地区において、手榴弾が爆発しました。

(26) 12月1日、ハドラマウト県クトン市において、国軍37機甲旅団技術担当副司令官（Marfidi 大佐）が道路上で信号待ちしていたところ、バイクに乗車した武装グループに襲撃され、同司令官、息子、護衛が死亡、4名が負傷しました。

(27) 12月5日、サヌア市内ウルディ地区（旧市街イエメン門向かい）国防省本部（正確には国防省構内ウルディ病院）において、アル・カーイダ構成員による大規模なテロ事件が発生しました。本事件による死者は同病院医師、看護師等52名（うち独国籍医師2、ベトナム国籍医師2、フィリピン国籍看護師2、インド国籍看護師1、イエメン国籍女性医師1、及び最高裁判事夫妻を含む）、負傷者は167名（うち9名は重傷）。

同国防省テロ襲撃事件の襲撃犯は11人と発表されました。

(28) 12月7日、ノーマン国民対話副議長（社会党党首）がサヌア市イーマーン大学付近の自宅から出たところ、消音器付銃で2発銃撃されました。

(29) 12月9日、サヌア市内繁華街アルジェリア通りにあるショッピングセンター「リ

ビアン・センター」において、爆発物があるとの通報があり、付近で捜索が行われました。

(30) アル・カーイダが12月12日にサヌア市内（一部プレスはハッダ地区と特定）でテロ攻撃を行うと予告したことを受け、内務省は最大級の厳戒態勢を発表し、政府官庁及び外国公館周辺での警備措置を強化しました。国連及びトタル社は職員に、12日は出勤しないよう指示しました。

(31) 12月16日、ジョウフ県スーク・イスナイニにあるホーシー派事務所において、爆発があり死傷者がでた模様です。

(32) 12月26日、サヌア市内60M道路沿いのテレビ局周辺において、激しい銃撃音が聞かれましたが、原因は不明です。

(33) 12月27日、ベイダ県ベイダ市において、GPC幹部 (Abdulla Al Haysami) が何者かに銃撃され死亡しました。

(34) 12月24日、アデン県ダール・サアド郡において、爆発があり1名が負傷したほか、同州内で暴力行為により6名が負傷しました。

(35) 12月28日、アデン県マンスーラ市において、何者かがアデン中央刑務所入口に手榴弾を投げ、門衛の兵士1名が死亡、4名が重傷を負いました。

(36) 12月31日、アデン県マンスーラ市において、何者かが警察署入口で小型バスに積載したTNT爆薬を爆破させ、犯行グループ2名が死亡、警備の治安要員7名が負傷しました。

#### 4. 誘拐・脅迫事件発生状況（平成25年10月～12月）

(1) 10月6日、サヌア市ハッダ地区ジャンドゥール・スーパーマーケットにおいて、当地ドイツ大使館員殺害事件が発生しました。犯人は逃亡しました。

(2) 10月6日、サヌア市内空港道路において、国連ユニセフ職員（シエラレオネ国籍）誘拐事件が発生しました。

(3) 11月19日、タイズ州知事シャウキー・ハーイルの甥ムハンマド・ムニール・ハーイルがタイズ市内で誘拐されました。

(4) 11月24日、サヌア市内において、トルコ国籍の運転手がシャブワ州出身の部族民に誘拐されました。

(5) 11月26日、サヌア市内（南東部カーデシーヤ地区）バイヌーン通りにおいて、イエメン軍に勤務するベラルーシ人専門家2名がバイクに乗車した犯人に襲撃され、1名が死亡、もう一名が負傷しました。

(6) 12月10日、サヌア市内ハッダ地区で誘拐されたオランダ人夫妻（女性記者 **Judith Spiegel** とその夫）が、当地オランダ大使館近接地域で誘拐犯の手で解放されました。両名とも健康状態は良好とのことです。

(7) 12月15日、サヌア市内ハッダ地区ミアードモスク近く（当館から250Mの距離）において、日本大使館に所属する書記官が、私用車を運転して宿舍ホテルより大使館

事務所に出勤途中、タクシーに乗車し、銃等で武装した賊2人（イエメンの衣装を着た男性）に進路を阻まれると同時に、刃物で切りつけられました。同書記官は頭部等に刃物傷を負い、賊は同書記官私用車を強奪し逃走しました。

5. 対日感情

対日感情は総じて良好です。

6. 日本企業の安全に関わる諸問題

当地に現在日本企業は存在しません。

7. 日本人安全対策のためにとった具体的措置

(1) 在留邦人に対しては、テロ等重大事件が発生する都度、メール及び電話を通じて、治安情報の提供及び安否確認を行っています。

(2) 当地は現在渡航自粛・退避勧告が発出中であり、一般旅行者の来訪は想定されていませんが、それでもなお、自己責任の下で入国する邦人旅行者のことを視野に入れ、短期滞在者等が投宿する可能性が高い宿泊施設に対しては、日本人の宿泊利用があれば、即時に大使館に連絡するよう要請の上、連絡体制を構築しています。(了)